

校長室だより **春日** (しゅんじつ)

校長 清武 直人

七夕

ささの葉さらさら
のきばにゆれる
お星さまきらきら
きんぎん砂子



教室の中に小さなささ飾りを見つけた
赤青黄色の短冊に
願いごと

「みんな笑顔で・・・」

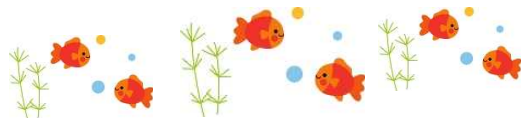
家族を思うお母さんの願いごと

優しさ

金魚売り 買えずに困む 子に優し
古屋 信子

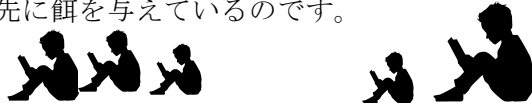
「金魚売り」という言葉そのものがすでに死語になってるのかもしれませんが、私には懐かしい響きがあります。

金魚を買いに集まって来た子どもたち。買えないけれども金魚が見たくて、その後ろにたたずむ子どもたち。そして、後ろからのぞき込んでいる子どもにたちにも優しく笑顔を向けてくれる金魚売りのおじさん。



以前勤めていた学校の、特別支援学級に在籍していた男の子のことです。

この子は、学校の池で飼っている鯉に餌をあげるのが日課になっていました。その子の餌の与え方を見ていると、目の前に集まってきている大きくて元気の良い鯉の後ろの方で口をパクパクしている小さな鯉に先に餌を与えているのです。



教室の中では先生の周りに集まって来る元気な子。そして、その後ろにいるはにかみ屋さん。そんな子にも目の届く教師でありたいと思います。

**森のともだち**

森の動物たちは、みんな仲良く、助け合って楽しく暮らしていました。そこへ、狐のこんきちが引っ越してきました。みんなは初めは大喜びでしたが、こんきちはわがままで乱暴者でした。

ある日、オオカミがやって来て、こんきちをつかまえてしまいました。

「どうしよう。」
森の動物たちはなにやら相談を始めました。



2年2組の道徳の授業です。子どもたちは、森の動物になって相談を始めます。

「どうする？」
「助けようよ。」
「そうだね、助けよう。」
お猿さんのお面をかぶった先生が揺さぶります。
「でも、こんきち君は乱暴者だよ。放っておこうよ。」
「でも友達だから・・・」

お猿役の先生は何度も揺さぶります。それでも、子どもたちは

「それでも友達だから助ける。」
と言い張ります。そして、
「助けないとこんきちのお母さんやお父さんも悲しむよ。」
って言うのです。

子どもたちの声を聞きながら、何かしら胸に熱くなるものを感じました。

